

東屋「野良亭」：集いの場、憩いの場、退避の場

主題

野良の藝術2025

吉田富久一

人々の集う場である東屋、および可動式竈（かまど）を制作。彫刻から失われた機能を回復し、社会に役立つ造形作品とする。昨日までを支配したグローバル経済は綻び、自己表現とした芸術も終焉。野良が人々を包み込む社会を迎える。

2002年に「社会芸術」結成。2009年頃、ドラム缶炭窯での炭焼を始め、穀殻燻炭の焼成に着手。新潟や川越を経由し見沼・さぎ山に着地。2017年、農家と地域住民の協働を得て、本窯を設置し「炭焼の会」を結成。さらに、2025年「野良の藝術」を結成により今日に至る。





